

第18回 秋山庄太郎「花」写真コンテスト NEWS

— グランプリ・特選・準特選 —

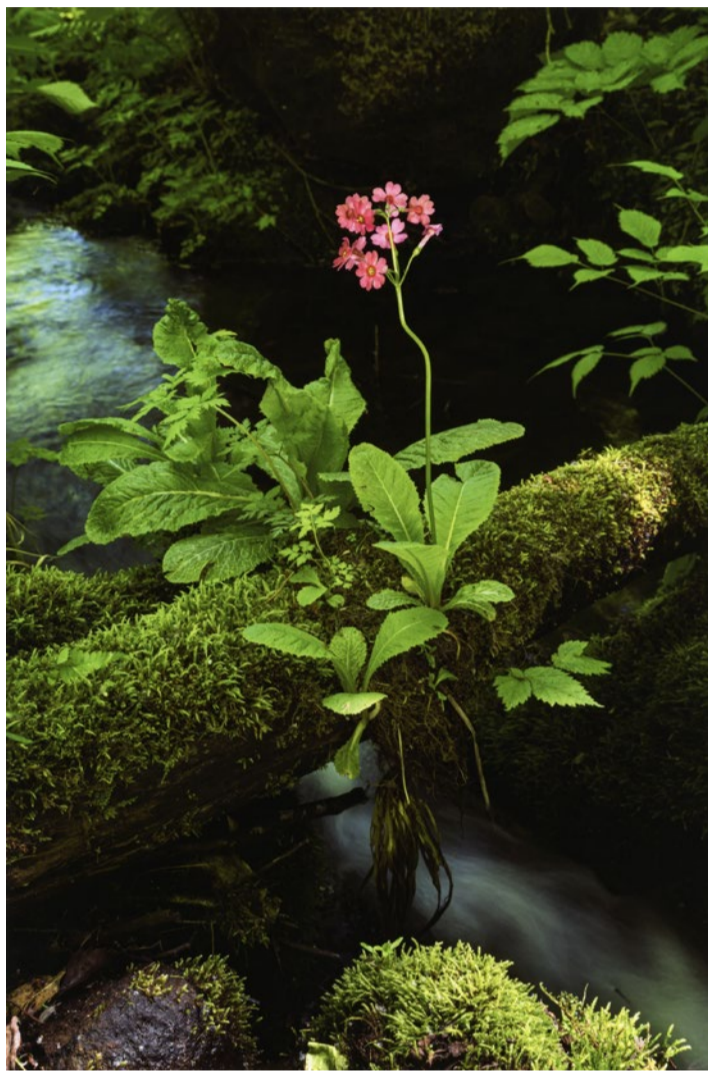
本コンテストは2002年の創始以来、写真芸術による福祉支援を理念としています。グランプリ・特選10作品は、秋山庄太郎作品とともに、福祉施設や福祉活動に携わっている団体などに寄贈されます。

秋山庄太郎 (あきやま・しょうたろう)

1920-2003
昭和・平成を代表する数多くの女優ポートレートを撮影。「美しきをより美しく」、「アマチュア畏るべし」を信条とし、写真芸術としての「花」をライフワークとする。紫綬褒章・旭日小綬章受章。2002年、本コンテスト創始。



グランプリ (秋山庄太郎賞)



「生きる」 浅野良 (福島県)

入賞作品展

【会期】2022年3月19日(土)～4月17日(日)
【会場】花の写真館(福島市写真美術館)
2階 企画展示室(入場無料) 所在地/福島県福島市森合町11-36
【時間】9:00～16:30(入館は16:00まで) ※初日は14:30頃開場予定
【展示作品】グランプリ・特選・準特選 計50作品(入選50作品は画像上映)

同時開催 | 秋山庄太郎展「いちごいちえ」(1階展示室/観覧料:一般500円)
生誕100年記念 前田真三作品 特別展示(2階旧所長室/入場無料)

※会場では、換気・消毒をはじめ新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取り組みを行っています。ご来場様には、マスクの着用、館内設置のアルコール消毒液による手指消毒、混雑時の入場制限、体調がすぐれない場合のご来場の自粛、ソーシャルディスタンスへの協力等をお願いしております。何卒ご了承の程お願い致します。
※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、会期・開場時間等を変更する場合があります。最新の情報は秋山庄太郎写真美術館ホームページ(<http://akiyama-shotaro.com/>)をご覧ください。

審査委員会総評

代表委員 丹地敏明 「ハートが感じられる作品に魅了されました」

全体にハートが感じられる作品が増えたように思います。審査委員会としてもハイレベルな作品の数々に魅入られ、入賞作品の順位決定に苦慮いたしました。その中でも目を引いたグランプリと特選については、それぞれの個性が生かされた優れた作品だと思います。グランプリ作品は、自然の中のクリンソウを美しく捉えていて、少しくびれた花の形には生命力が感じられます。作者の方はこの花を見つけて、本当に惚れ込んで撮られたのではないだろうかという印象を受けました。そのほかの入賞作品を見ても、作者の持つ感情や印象が、光と花の放つ色彩とで再構成され、美しく見飽きない作品が揃いました。今後も、花と向き合い個性的な作品と出会いたいと思います。



たんじ・としあき(写真家) 写真愛好家育成をはじめ写真界の発展に長年尽力。日本写真家協会会員、日本写真協会会友、日本風景写真協会名誉会員。

特選



鈴木彦三 (福島県) 「旅立ち」



「早春の舞い」 川田武男(栃木県)



阿部雅彦(東京都) 「秋に燃ゆる」



「白頭巾ちゃん気をつけて」 落合俊哉(東京都)



「秋の声」 西岡朝子(東京都)



「ふた花 しづか」 上村裕子(岡山県)



「夏の貴婦人」 大西展子(福岡県)



「喜びの春」 永富治子(福岡県)



「万華鏡」 矢頭昭治(福岡県)

審査委員寸評

中村由利子 「バリエーション豊かな素敵な作品ぞろい」

入賞された作品を改めて拝見すると、芸術的な作品、絵画のような作品、ほっこりする作品、神秘的な作品、自然の中の作品、旅に出てみたくなる作品…と、バリエーション豊かで、飾ってみたいような素敵な作品が揃ったと思います。グランプリ作品は、作者の方の応募用紙のメッセージに「何としても生き抜くという、花の持つ生命力に心を打たれました」と書かれている通り、まさに「生きる」というタイトルにふさわしく、花との出会いの大切さを感じました。



なかむら・ゆりこ(作曲家・ピアニスト) 秋山庄太郎存命中から秋山の花映像作品に楽曲を提供。長年、写真愛好家としても撮り続けている。

坂井田富三 「ソフト効果を狙う時は十分な気配りを」

昨今のブームもあってか、ソフトフィルターや大きなボケを表現した作品が多くみられました。花を「やさしく・柔らかく」表現するのにはとても良い方法の一つではありますが、少しソフト効果が強すぎて全体的に作品がぼやけてしまっている作品も多く見られました。ソフト効果を狙う場合はメインである被写体に芯を残す事を心がけて、同じ被写体でも絞りの設定やフィルターなどの組み合わせをいろいろとチャレンジすると良いと思います。オリジナリティ溢れる作品が今後も増えていくことを期待しています。



さかいだ・とみぞう(写真家) キタムラ勤務時代から撮影会などを担当。日本写真家協会会員。現在、フリーランスで活躍中。

館弘美 「レンズを通してこそ見えるものがある」

ひと工夫して丁寧に撮られた作品が数多くみられ、年々レベルアップしていると思いました。グランプリ作品「生きる」は、マイナスイオンが漂うような山の緑をバックに、瑞々しく凛と咲く花の姿から、「ありのままの美しさ」や「生命力」を感じました。レンズを通して見ると、見えないうものがでてきて、はっと気づかされることがあります。一人でゆったりとした時間の中、花との対話を楽しみながら、感情豊かに撮影するのも心地いいものです。



たて・ひろみ(フォトアーティスト) 小学校、生涯学習施設、ミュージアムで写真ワークショップの講師を務めるなど写真芸術普及に携わる。

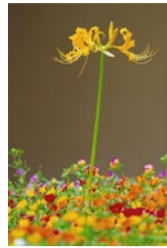
準特選



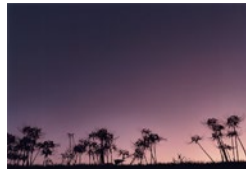
「麗花(れいか)」
齋藤 幹太 (北海道)



「夏日」
齋藤 彰 (山形県)



「追想」
齋藤 敏夫 (福島県)



「トワイライト」
井上 舞子 (茨城県)



「ときめき」
塚本 勝美 (茨城県)



「スター気取り」
渡邊 邦雄 (茨城県)



「三姉妹」
御供 良一 (群馬県)



「ひとときの夏に輝く」
吉田 茂司 (群馬県)



「襖絵のごと」
安中 英彦 (埼玉県)



「白い森」
小林 キヨ子 (埼玉県)



「天使に可憐な花束を」
住 由子 (埼玉県)



「ブーケのように」
巻島 秀男 (埼玉県)



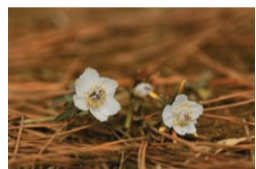
「凛として森の中」
植松 護 (千葉県)



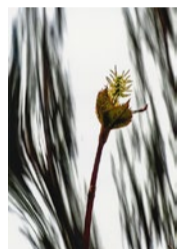
「鎮守様への道」
小野寺 恵一 (千葉県)



「早春に咲く」
當麻 勝正 (東京都)



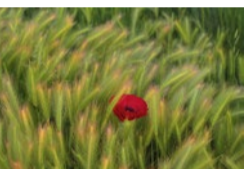
「春の息吹」
平林 勝利 (東京都)



「鏡の中のヒトリシズカ」
諏訪 誠三 (神奈川県)



「妖艶」
石田 誠善 (新潟県)



「華やかな静寂」
栗原 昭作 (新潟県)



「窓華」
関根 明 (新潟県)



「希望」
渡辺 久子 (新潟県)



「天高く」
植木 勤 (長野県)



「高原の妖精」
大久保 富美江 (長野県)



「道ゆく人を笑顔に」
古賀 さつき (長野県)



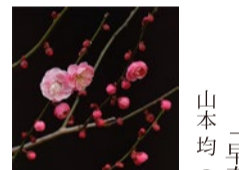
「春光」
清水 清一 (長野県)



「清楚」
田中 郁司 (岐阜県)



「雪中梅」
蒔苗 友紀 (岐阜県)



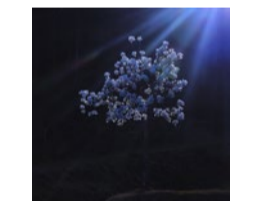
「早春梅図」
山本 均 (静岡県)



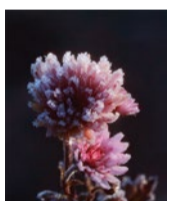
「紫のお星さま 桔梗」
伊藤 秀夫 (愛知県)



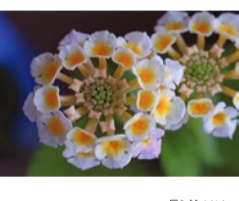
「ひたむきに」
細田 浩 (愛知県)



「幻想」
芦田 千賀子 (京都府)



「おはよう」
今井 幸雄 (大阪府)



「満開」
前田 幸生 (大阪府)



「情熱」
児島 巧 (鳥根県)



「日照雨」
増田 邦彦 (香川県)



「雨玉」
吉良 恵子 (高知県)



「花もよう」
谷口 八十美 (高知県)



「凛として立つ」
上瀬 伸博 (福岡県)



「青空に包まれて」
本村 智 (鹿児島県)



「ささやかなおもてなし」
金城 真紀子 (沖縄県)

入選

※作品は秋山庄太郎写真芸術館ホームページ (<http://akiyama-shotaro.com/>) でご覧いただけます

石原 道子 (北海道)
松橋 正 (岩手県)
阿部 直美 (山形県)
鈴木 博明 (山形県)
豊岡 守一 (山形県)
遠藤 康彦 (福島県)
勝山 輝夫 (福島県)
佐藤 眞吾 (福島県)
鈴木 達也 (福島県)
秋山 博昭 (群馬県)

阿部 立子 (埼玉県)
金山 修康 (埼玉県)
若林 弘勝 (埼玉県)
市川 正明 (千葉県)
泊り 忠昭 (千葉県)
中川 大輔 (千葉県)
阪 有子 (千葉県)
松井 一浩 (千葉県)
加藤 律子 (東京都)
田所 俊一 (東京都)

富永 賢 (東京都)
山崎 タキ子 (東京都)
太田 有美子 (神奈川県)
沖 久典 (神奈川県)
恩田 尚美 (神奈川県)
坂巻 富志子 (神奈川県)
野田 光治 (神奈川県)
石倉 盛夫 (新潟県)
岩澤 幸治 (静岡県)
大矢 信吾 (愛知県)

佐藤 正亘 (愛知県)
山田 幸哉 (愛知県)
世古 道也 (三重県)
梁井 英雄 (三重県)
公文 啓一 (京都府)
塩見 芳隆 (京都府)
工藤 嘉晃 (大阪府)
廣瀬 靖之 (大阪府)
久留米 敏仁 (兵庫県)
池原 正夫 (奈良県)

大森 博 (鳥取県)
道城 謙治 (岡山県)
高森 孝子 (広島県)
三國 誠 (山口県)
吉川 航太 (愛媛県)
加藤 光夫 (福岡県)
木下 泰子 (福岡県)
中村 克実 (福岡県)
守田 宜昭 (福岡県)
早田 暁伸 (大分県)

審査委員寸評

小林 健三 「詩的で美しい作品、写真の力を感じる」

「写真の力」を感じさせられる審査会でした。あつ綺麗な、パシャとシャッターを切るだけではない、それぞれの写真が強く語りかけてくる作品が多く出品されていました。なかなか外に出かけられないなか、一点の写真と向き合う時間がより深くなったのではないのでしょうか、トリミングにしても過不足がなく、それぞれ詩的で美しい作品ばかりでした。また、室内撮影に「新しい花写真」の世界が開けてきたように思います。次回がまた楽しみになりました。



こばやし・けんぞう (グラフィックデザイナー) 秋山庄太郎写真展や作品集のアートディレクション、秋山庄太郎写真芸術館の館内外デザインを担当。

鹿島 千香子 「色合いと豊かな個性が印象的」

コロナ禍で遠出や旅行をするのがむずかしかつたと思います。その影響からか今回のコンテスト応募作品は、室内の写真が多く見受けられました。限られたスペースのなかで工夫して撮影されている作品が多くあったのが印象的でした。色合いなども今までにないものがあり、個性豊かな作品が多かったです。グランプリ作品は準備を入念にされてシャッターチャンス待、その根気が伝わってくるような素晴らしい作品だと思いました。



かしま・ちかこ (フォトプロデューサー) 秋山庄太郎が創業した写真スタジオ「秋山写真工房」で秋山写真芸術館を継承している。

上野 正人 「秋山写真芸術に通じる撮影姿勢」

今年(2022年)は、本コンテストスタート20年目。秋山作品を常設展示していた「町田市フォトサロン」開所3周年記念行事の一つとして催されたのが始まりです。第1回から関わらせていただきましたが、ひときわ個性的な作品が多く目にとまりました。それもきつとたのしく撮られたのだろうな…ということがうかがえる作品が少なくありませんでした。どこに行くにも、カメラを手にしていた秋山庄太郎。気張らない、自然体の撮影姿勢が、皆様のご応募写真から思い出されました。



うえの・まさと (キュレーター) 美術館学芸員を経て、秋山庄太郎写真芸術館館長。秋山庄太郎と本コンテストを創設し、企画・運営に携わる。

〈主催〉

秋山庄太郎「花」写真コンテスト実行委員会

〈審査〉

秋山庄太郎「花」写真コンテスト審査委員会

〈協賛〉

カメラのキタムラ、秋山庄太郎写真芸術館
株式会社秋山写真工房、有限会社イマジン・アートプランニング、OMデジタルソリューションズ株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社ケンコー・トキナー、株式会社スリーノーマン、ソニーマーケティング株式会社、株式会社第一印刷、株式会社二コイイメージングジャパン、ハクバ写真産業株式会社、パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、リコーイメージング株式会社

〈後援〉

秋山庄太郎写真芸術協会、一般社団法人日本フォトコンテスト協会

〈運営協力〉

秋山庄太郎記念芸術文化振興協会

〈事務局〉

齋藤 智志 秋山 啓佑 中埜 淳子

《作品寄贈について》

前回(第17回)の秋山庄太郎「花」写真コンテストのグランプリ・特選作品は、秋山庄太郎額装作品とともに、下記に寄贈させていただきました。
社会福祉法人 柏寿会 (岩手県一関市)
社会福祉法人 大洗町社会福祉協議会 大洗かもめ保育園 (茨城県東茨城郡大洗町)

実行委員会より

代表 佐藤 卓 (カメラのキタムラ)

昨年に続いてコロナ禍のなかでのコンテスト開催でしたが、バリエーションに富んだ個性的な作品が多く、一点一点の物語が作品から伝わってきました。魅力的な作品をご応募いただき感謝申し上げます。



※各賞中の作者・審査委員・企業・団体等の敬称は略し、それぞれ順不同で掲載させていただきました。

発行/秋山庄太郎「花」写真コンテスト実行委員会 ©
〒107-0062 東京都港区南青山 4-18-9 秋山庄太郎写真芸術館 気付 ☎ 03-3405-8578